

四季報

建築設計協会青年部NEWS
2003・07（夏号）

発行/(社)福島県建築設計協会 東北支部 青年部 情報委員会
所在地/〒960-8043 福島市中町4-20 みんゆうビル
電話 (024)521-4033 FAX (024)521-5087

平成15年度東北支部青年部通常総会終了

2003年度青年部役員（以下敬省略）

部会長	鈴木宏幸	監事	河野 忠
副部会長	鈴木勇人	幹事	明石茂樹
副部会長	田畑建一	幹事	菅野 真
監事	木村春夫	会計	田中宏幸



2003年度委員会：委員長、副委員長

総務会員委員会（委員長：原田信弘、副委員長：荻野誠也）

研修委員会（委員長：家名田秀昭、副委員長：後藤充偉）

情報委員会（委員長：蛭川礼二、副委員長：箱岩 偉）

政策委員会（委員長：大内一弘、副委員長：鶴飼隆則）

来賓に東北支部副支部長の太田宏三氏を招き全議案
について無事承認され総会は終了した。

日時：5月12日（月）

会場：ウエディングエルティ

寄稿
特集

福島県新組織の建築行政

福島県では、平成15年4月1日から「新組織による行政」がスタートしました。建築行政においても例外ではなく、新たに創設された「建築領域」等の稼働状況に関心が寄せられています。スタートして、まだ3ヶ月ではありますが、今後の展望等も合わせて鈴木康之建築領域総括参事に所感を寄せていただきました。

1. F F型新組織における建築行政

福島県では、「F F型新組織」がスタートし、土木部内に新たに「建築領域」が誕生しました。建築領域では、県長期総合計画の部門別計画である「うつくしま建設プラン21」に基づき、美しい都市の形成や、少子高齢社会に対応した誰にでも使いやすい建物をつくるためのユニバーサルデザインの理念、適正な維持管理を念頭に、耐久性が高くライフサイクルコストを重視した建物、いわゆる良質な社会資本整備をしていく必要があり、さらに、建築文化の創造に貢献できる事業を実施していきたいと思っております。

2. 新体制による今後の展望

県有建築物は建設されてから相当の年月が経過しているものが数多くあり、今後これらの施設をいかにリニューアルしていくかが大きな課題となっております。

今回の組織改編で、特に保全計画担当を設けました。県有建築物の建設年次や修繕履歴を明確にし、段階を踏んだ修繕計画を実行することとしております。

公共施設は広く様々な方が利用しますから、県民にとって安全・安心で良好な建築物を追求するとともに、県民の理解を得ながら事業を実施していく必要があると思っております。

また、建築領域の中で、お互いに様々なテーマや問題点を出し合い、情報の共有化を図りながらより良い建築のため職員が一丸となって相乗効果を発揮できればと考えております。

3. その他

現在、建築士に求められているのは、建築主にとって建築士がより信頼でき、頼れる存在となることであると思えます。設計者として、より良い設計内容を提案することはもちろんですが、専門家として説得力のあるアドバイスと的確な調整を行うことが重要です。加えて、建築主は最小の費用で最高の満足度を得られる設計を求めているわけですが、それには時間と費用がかかるということを認識していただく努力が必要です。

また、建築物に対する要望は、多種多様となってきておりますが、設計者は、設計の過程で様々な情報を分析し、個々の条件をできるだけシンプルに、かつ総合的にバランスの取れた集大成として仕上げるとともに、時代の流れと将来を見通した建築物とすることが重要な責務となります。

これらを踏まえて、皆様の今後の御活躍を期待するところであります。

“『福島』元気回復！”

部外寄稿特集とし福島商工会議所青年部会長の小林仁一氏にこれからの『福島まちづくり』についてお寄せいただきました。

福島県設計協会東北支部青年部の皆様には同じ青年部つながりということで、日頃より福島商工会議所青年部（福島YEG）の事業につきましては格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。このたび当会のまちづくりに対する活動及び諸事業について、この場をお借りしてPRさせていただくことになりまして誠にありがとうございます。

さて、閉塞感の漂う福島の経済を元気にするために私たち青年団体のメンバーは一人ひとりが個性を尊重しあい、元気な会社をつくらなければなりません。自分たちの会社が元気でなければまちを元気にすることなど到底できないと考えるからです。元気な会社が増えれば増えるほど雇用ができ、人が集まり、まちが元気になっていきます。私たちはまちづくりに取り組む前にもう一度原点に戻り自分の会社を見つめ直す必要があります。

そのような意味を含めて今年度の福島YEGでは“『福島』元気回復”をテーマに掲げ、私たちが暮らす福島を元気にするとともに会員企業の元気につながる事業を展開したいと考えております。具体的にはYEGの原点であるアントレプレナーズ（起業家）魂に力強く燃える火を点すためのアントレプレナーズ支援や経営情報の共有を図るための委員会を新設しました。これらの一環として10月25日にコラッセふくしまで“『福島』元気回復”セミナーを開催する予定となっております。その他にも福島駅周辺活性化や夏まつり活性化等の活動を通じて視野を広げるとともに、他の青年団体との交流を深め、「元気福島」を広く情報発信していきたいと考えております。

また、福島を活性化するためには人の流れを福島に向けることが大切です。国内外から新たな出会いや発見を求めて福島を訪ねる人々を増やさなければまち全体がマンネリ化します。同時に福島に地域に住む若い人が新規創業のチャレンジしやすい環境をつくっていかねばならないと思えます。せっかく福島には花見山や温泉街をはじめ外に誇れる豊かな資源がたくさんあるのですから、世界中から人を集める気概でグローバルな視点を持って福島をPRしていきたいと考えております。今後は、できるだけ多くの福島の情報発信していくためのソフト面での努力が必要だと思えます。

最後に私たちは自分達の会社の経営基盤をしっかりと確立させた上で、地域を支える青年経済人として先導者としての責任を自覚し、共通のビジョンをもってまちづくりに取り組んでいかなければならないと思えます。私たち青年団体はがっちりスクラムを組んで人々が魅力と活力のある生活シーンを展開できる福島を目指し、福島らしさを生かしたまちづくりを進めていくことで、今まで以上にすばらしい福島を創造していきたいと考えております。